



会場：インペリアルパレスシティーホテル2階

15日 講演等 Selen a

懇親会 同上

自由討論、意見交換会Dubhe

16日 シンポジウム、講演 Dubhe

理事会 4階会議室

プログラム

4月15日(土曜)

16時～17時30分

司会；中庭洋一

講演

子どものうつ病

長尾圭造

17時30分～18時30分 医療経済に関する報告

中島洋子

19時～21時

懇親会

司会；RXBラジオあべやすみ

21時～23時

自由討論・意見交換会

4月16日(日曜)

9時～10時

総会

10時～12時30分

多機能型、地域連携に関するシンポジウム

司会；原田 剛志

1. 地敏連携について

中庭 洋一

2. 成人の多機能と児童の多機能

大嶋 正浩

3. 児童独自の多機能

溝口 健介

4. 青年期までを見据えたASDへの地域支援の試み

コーディネーターとしての臨床心理士の役割

山口大学教育学部

木谷 秀勝

12時30分～13時30分

昼食

および

別室にて理事会

13時30分～15時

研修講演 applied science(応用科学)について

長尾圭造

15時～

見学会

パークサイドこころの発達クリニック

なかにわメンタルクリニック



「ちょっと遠くに行きたかったし。」と新幹線にかけ乗った私は、車窓から雨に打たれる葉桜をぼんやりと眺めつつ、本当に長く寒い春だったなあとため息をついていた。そんな風に、JaSCAP-C福岡大会に向かったのです。

印象記を記すに当たり、軽く自己紹介をと思います。阪神大震災の年に一家で大阪に移住後は子育て主婦兼フリーター精神科医となりまして、一念発起、H14年秋にクリニックを開業、h20年に階下に小さなデイケアを構えてからは、常勤PSWの産休・育休を支える度にスタッフが増えていきました。「発達障害」に首を突っ込み、断らずに受けていたら児童思春期が次第に増え、常勤PSW6名のうち半数が時短勤務となる時に、福祉事業への拡大を決意して法人化、昨年2月に相談支援+放課後等児童デイの複合施設の開設にこぎつけたのです。しかし、非常勤を含め20名を超えるスタッフと、資金繰りに追われる日々の中、この春は初めて雇用契約を巡る集団交渉に発展、妥結の後に苦さの余韻が残ってしまっていたのでした。

さて、4月15日の福岡は初夏の兆しで、天神の街の賑わいの中、福岡大会は、当協議会の代表でもある長尾圭造先生による「子どものうつ病」の講演で始まりました。三重県の中学校でのメンタルヘルス活動の実践や日頃の診療体験からの報告は何よりも説得力があり、先生が編み出された「健康症状チェック表」による構造化質問紙法や、A3判で用意いただいた「うつ症状の段階表」は、実践的ですがすぐにも使いたくなるものであるばかりでなく、その臨床に対する熱い思いに触れたことが、こごえた心に火を灯されたような思いがしたことでした。

第2部の「医療経済に関する報告」では、まず大嶋正浩先生からこの春の診療実態緊急アンケートの結果報告があり、次いで中島洋子先生から来春の診療報酬改定に向けての現状報告とともに、診療所で児童精神科医療に携わる立場としての本会の要望が提案され、医療行政に対するこの協議会の意義と必要性を改めて認識させられました。

二日目の「多機能型、地域連携に関するシンポジウム」では、四人のパネリストからの実践報告があり、児童ならではの地域連携の必要性とその反面での医療の限界、そして今後の可能性としての児童福祉領域について盛んな討論が交わされ、真っただ中にいる者として身を乗り出す思いであり、昼の休憩も、居合わせた参加者の方々とランチをともにして意見を交換する貴重な時間となりました。午後の長尾先生による研修講演「applied science（応用科学）について」では、児童精神医療を科学に基づいた技術として主張していくための原則を改めてまとめていただき、日常の忙しさに振り返ることを忘れがちなこの頃に喝を入れられたようでした。

総じて、「診療所だからこそ」のJaSCAP-Cに、頑張る力をチャージさせていただいた二日間となりました。中庭先生をはじめとする事務局の皆さま、本当にご苦労様でした。



児童精神科のクリニックの開業を決めてしばらくして、2015年秋の日本児童青年精神医学会の大会の開催プログラムの中に、児童精神科の診療所（クリニック）同士で連絡を取って励まし合っているという当会合のプログラムを見つけ、参加したのが第2回大会で、日本児童青年精神科診療所連絡協議会を知る契機となりました。中島先生が熱く熱弁を振るっておられたのがとても印象に残っています。他の先生方の熱い想いも伝わって、経営は大変だけれど、児童精神科医として地域に根ざし、医療である診療だけでなく、行政や福祉、学校の先生との連携も大変重要であると痛感させられました。そして、昨年春の第3回大阪大会では、雇用予定のコア・スタッフとともに参加させて頂き、昨年6月6日に愛知県岡崎市で児童精神科を標榜する初めてのクリニックとして開業させて頂きました。幸いにもニーズがあり、西三河地域一帯から患者様やご家族に足を運んで頂いております。そうして、第4回の岡山大会を経て今回の第5回福岡大会となりました。

今回、開業して10ヶ月目というところで、再び事務長、主任看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士それぞれ1名ずつの計4名を伴い多くを学びたく2日間フルに参加させて頂きました。

まず、長尾先生の「子どものうつ病」の講演では、子供を1人でも多くなんとかしてあげたいという積年の熱い想いと地域での熱い啓蒙活動がこちらにも伝わってきました。私と同行したスタッフたちも先生の本を読んで講演に臨んだのですが、大変為になりました。今では、長尾先生のところで使用されている質問紙表（うつ病の尺度など）も導入させて頂きました。

そして、2日目の「多機能型、地域連携に関するシンポジウム」も各地域の先生の知恵と戦略を具体的に御教示頂いたので、有難い限りでした。当院は、診察室が2つ、処置室（点滴や採血、ナート処置など）が2つ、心理検査室が2つ、プレーセラピールームが1つで、それらが1階にあり、2階には、不登校の子どもたちや行き渋りの子どもたちの居場所としてのデイケアを開院当初から設置しており、多機能を目指しておりました。5月には、児童発達支援サービスと放課後デイサービスを別棟で始めており、スタッフの間でも「こんなに次々と拡張して行って大丈夫？」という意見もありました。しかしながら、多機能型診療所がなぜ必要かという必然性が説明されていたので、方向性は間違っていなかったんだと私共々スタッフも認識できて、その点で有難い思いでした。また、各先生方とお話をさせていただく際に、「学校連携で学校に出向いて、校長先生や担任の先生などと話して割かれる時間や、学校の先生がわざわざクリニックを訪問して下さってお話する時間、また、電話でお話する時間などそれ相当に使う時間はどうやって診療報酬またはサービス報酬に変えていくか？」という点でも様々な御知恵を教えて頂きました。若輩者の私どもにも全く盛沢山に学べたことを心から感謝しております。今後もこういう機会があることを益々楽しみにしております。こうした皆様の知恵をお借りしながら、一人でも未来のある子どもが、特性を持っていても、いや、だからこそ社会で活躍し、「違っていても明るい未来がある」と地域のあらゆる方々に確信して頂く日が来ることを信じて診療に邁進して生きたい覚悟を頂きました。